

施策評価シート

評価年度	平成28年度	事業実施年度	平成27年度	施策主管次長名	市民協働部次長 近藤友久	
施策番号	66	施策名	多様な文化に親しみ、ふれあえるまち		総合計画掲載頁	104
関係課名	協働推進課、学校教育課、秘書課					

1. 施策の概要

施策の目的	対象	市民	対象指標名	単位	H26実績	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
			① 人口	人	59,885	60,365	60,710	61,056	61,401	61,744
			② 在住外国人	人	1,532	1,648	1,678	1,708	1,738	1,768
	③									
意図	国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化を認め合い、交流したり、地域社会で共に生活していく環境を整える。				成果指標名	① 市の国際交流事業が重要だと答えた人の割合 ② 市の国際交流事業に満足していると答えた人の割合 ③ 在住外国人の中で日本語教室に参加した割合 ④				

2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H26実績	H27計画	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
①	市の国際交流事業が重要だと答えた人の割合	%	67.4	68.0	62.0	63.0	64.0	65.0	66.0
	指標設定の考え方と把握方法	市民が市の国際交流の重要性をどのように捉えているかを「行政評価アンケート」から把握							
指標	成果指標名	単位	H26実績	H27計画	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
②	市の国際交流事業に満足していると答えた人の割合	%	45.4	47.0	42.6	43.0	44.0	45.0	46.0
	指標設定の考え方と把握方法	市が行っている国際交流事業への満足度を「行政評価アンケート」から把握							
指標	成果指標名	単位	H26実績	H27計画	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
③	在住外国人の中で日本語教室に参加した割合	%	7.2	7.5	7.4	7.6	7.8	8.0	8.2
	指標設定の考え方と把握方法	外国人が生活するうえで日本語の習得は重要なものであり、日本語教室への参加者数から把握							

3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	国際交流事業や市内在住の外国人とのふれあいを通じて、外国文化への理解を深め、外国人との共生に努める。			
	行政	国際理解と多文化共生社会の実現のため、各種国際理解講座及び日本語教室の開催や日本語ボランティアの養成等を行う。			
達成度評価	近隣との比較	・近隣では、成果指標①、②ともデータが無く比較できないが、西三河9市では高浜市を除き、海外の都市と姉妹提携等をしており、国際交流は盛んである。 ・外国人の日本語教室の参加率についてはデータはないが、西三河9市中、高浜市を除き日本語教室を開催している。			
	過去3年間の実績との比較	過去3年間の実績との比較は、①の重要と答えた人は、減少傾向の中、26年度は回復したが、27年度はまた減少した。②の満足していると答えた人の割合は、減少傾向にあり、27年度は2.8ポイント減少した。③の教室参加率は、26年度は1.7ポイント減少したが、27年度は0.2ポイントの微増である。			
現状と課題	◆みよし市には現在、約1,600人ほどの外国人が在住しており、定住化傾向が進んでいるが、今後の景気の動向により定住の鈍化も予想される。 ◆外国人定住者や新たに転入してきた外国人が、日本人との間に発生するトラブル等の問題について相互理解を深め解決し、一市民として市や地域の活動に参加し、まちづくりに参加できるような機会の提供が今後も必要である。				
今後の取り組みの方向性および次年度の取組	◆国際友好都市交流事業を通じ、児童生徒がより一層国際社会に興味を持つよう姉妹校同士の作品交換、メール交換などの交流及び、コロンバス市との中学生、教師の交流を継続する。 ◆在住外国人と市民が互いの文化・風習等を理解し合い、外国人が地域社会で共に生活できる環境を整えるため、地域とのかかわり方やマナーなどの講義も含めた日本語教室の開催を継続する。				
	(29年度の取組) 小中学校に在籍する外国の児童生徒のための初期日本語教室、外国人通訳・サポート、外国人のための日本語教室、日本語ボランティア養成講座及びコロンバス市への中学生派遣				
市民意識	重要度	低い	満足度	低い	平成27年度市民アンケート調査による